

令和元年5月30日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26284113

研究課題名(和文) コスモポリタニズムと秩序形成 ブリテン世界における近代的イシュー

研究課題名(英文) Cosmopolitanism and social order: Issues in modern British world

研究代表者

勝田 俊輔 (Katsuta, Shunsuke)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授

研究者番号：00313180

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、当初の課題に掲げた二つの問題のうち、主にコスモポリタニズムに注力した。海外より研究者を二名招聘してワークショップを計二度開催した他、日本18世紀学会主催のシンポジウムに研究メンバーが参加し、報告を行った。この他にも日本人のワークショップを二回、研究メンバーによる研究会を約10回組織した。

以上の活動を通じて明らかになったのは、第一に、西洋世界のコスモポリタニズムは、個人の次元、国民の次元、超国家組織の次元を持った重層的な理念だったこと、第二にこの理念は、当時の戦争や宗教対立、貿易の競争などの現実に対して、急進主義的な変化とは異なる性質の改革構想としての意味を持ったこと、である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

コスモポリタニズム研究は、冷戦後の世界秩序を考える手がかりとして、1990年代より英語圏で隆盛を見ている。日本語圏では、政治思想研究としては成果を生みつつあるものの、特に歴史研究においては未開拓のテーマである。本研究課題は、主に18世紀西洋におけるコスモポリタニズムを検討した。その結果、18世紀の知識人にとっては、アメリカ独立革命やフランス革命で掲げられた自由や平等の問題とは別に、諸国家の対立が深刻な問題であり、コスモポリタニズムはそうした現実に対する緩和策として構想されていた面が強かったことを確認した。この意味で、コスモポリタニズム研究は、現代世界の問題についても貢献することが可能となろう。

研究成果の概要(英文)：The main results of the this research project are as follows. Firstly, the concept of cosmopolitanism in early modern Europe began with the idea of a cosmopolite, who was free from national prejudices. Second, the value attached to the cosmopolite changed from negative to positive, as shown in the definitions and accounts given in dictionaries and encyclopaedias. Third, this change meant there had emerged an ideal of becoming a cosmopolite, which in turn signified the birth of cosmopolitanism as a norm. Fourth, there existed in eighteenth-century Europe a rival norm of cosmopolitanism, i.e., patriotism. Rousseau and others criticised cosmopolitanism as an unrealistic ideal. Fifth, Kant changed the paradigm of the debate by arguing that cosmopolitanism was not a matter of love to one's home country, but that of courtesy towards foreigners. Finally, cosmopolitanism thus can be seen as an attempt of reform in eighteenth-century Europe where wars and commercial rivalries abounded.

研究分野：西洋史学

キーワード：コスモポリタニズム ヨーロッパ 近世 国際交流

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) コスモポリタニズムの研究は、現在英語圏では隆盛を見ているが、日本語圏では、政治思想研究としての成果を除くと限定的であり、とくに歴史研究は手つかずの状況にある。本研究課題は、こうした状況に鑑みて、コスモポリタニズムの歴史研究として発足した。

(2) コスモポリタニズムはかなり間口の広いテーマであるため、対象地域をブリテン世界とした。また議論を具体化するために、第二テーマとして、現在の西洋史学で関心を集めている秩序形成の問題も同時に検討することとした。

### 2. 研究の目的

(1) 上述のように、ブリテン世界におけるコスモポリタニズムと秩序形成の問題を関連づけて検討することで、階級や国民形成にかかわる新しい歴史解釈・叙述の視点を提供することを目的とした。

### 3. 研究の方法

(1) 研究代表者・研究分担者にそれぞれ担当分野を振り分け、定例研究会において順番に研究報告を行うことを義務づけた。また国内でワークショップを二度、学会シンポジウムを一度、外国人研究者を招聘したワークショップを合計二度開催した。

### 4. 研究成果

(1) コスモポリタニズムと秩序形成の二つのテーマのうち、コスモポリタニズムを優先課題としたが、その結果、これ自体がかなり大きなテーマであることが判明し、こちらに注力することとした。また同時に、ブリテンの人間の間では、コスモポリタニズムに関連する思考法がフランス人、ドイツ人などと比べ弱かったことも判明し、本研究計画は軌道修正が必要となった。

(2) 新たな研究の方向性として、フランス語圏、ドイツ語圏、イタリア語圏などの研究者をゲスト報告者として議論に参加してもらい、コスモポリタニズムをヨーロッパにおける問題として把握することとした。その結果、得られた成果としては、以下の三点が挙げられる。

(3) 第一に、コスモポリタニズムは18世紀においては第一義的に個人の帰属/アイデンティティの問題として認識され、個人が国の枠を超えて世界市民(cosmopolite)となり得るのかどうか、に関心が集中していた。

(4) 18世紀ヨーロッパにおける各種の辞典・事典において cosmopolite の語は、当初は正負両方の意味が与えられていたが、時代が下るにつれて肯定的な意味のみを有するようになり、その結果、規範としてのコスモポリタニズムが成立した。

(4) 18世紀においてコスモポリタニズムの対抗概念はナショナリズムではなくパトリオティズムであった。一部の啓蒙知識人は、パトリオティズムの対象となる地を、生まれ故郷ではなく各人が自由に選んだ地と定義し、そうした自由の地を建設することが人類全体の幸福を増大させ得ることから、コスモポリタニズムとパトリオティズムを相互補完的なものと考えようとした。

(5) これに対してルソーやスミスらは、出生の地に対する愛着を人類愛に優先させることが自然で無理がないことを説き、人類愛を祖国愛に優先させるコスモポリタニズムを抽象論として斥けた。

(6) だがカントは、コスモポリタニズムを愛情・愛着の問題ではなく、異邦人に対して与えられる権利の問題として再定義し、コスモポリタニズムをめぐる議論に新地平を開いた。すなわち、コスモポリタニズムは、諸国民の草の根の次元での交流を拡大することによって広まるべき規範と考えられた。

(7) 以上のように、コスモポリタニズムは、国家間の戦争や貿易の競争が激しかった18世紀において、民間の交流の拡大によって国家間の対立を緩和することを試みようとする理念だったと総括できる。すなわち、アメリカ独立革命やフランス革命で掲げられた自由や平等の問題とは別の次元で、現実への対応策として構想されていた。この点に着目すれば、コスモポリタニズム研究は、文明間の対立が難題となっている現代にも貢献することが可能となろう。

### 5. 主な発表論文等

#### [雑誌論文](計9件)

勝田俊輔「18世紀西洋世界のコスモポリタニズム コメントにかえて」『日本18世紀学会年報』査読有 第34号 2019 39-48

金井光太郎「世界市民フランクリンに見る対抗文化としてのコスモポリタニズム」『日本18世紀学会年報』査読有 第34号 2019 28-38

近藤和彦「さよならの挨拶：フランス人とイギリス人」『立正史学』査読有 123号 2018

1 - 14

- 辻本諭「結びつきの場としての軍隊：18世紀イギリス陸軍将校の人的つながりに注目して」『史学雑誌』査読有 127巻12号 2018 39-64
- 伊東剛史「犬吠埼灯台から考える「科学のロケーション」」『専修大学人文科学研究所月報』査読無 291号 2018 1-22
- 坂下史「近代イギリスにおける「科学知」伝達の経路：パースおよび西イングランド協会の活動に見る草の根啓蒙の一断面」『化学史研究』査読有 43巻3号 2016 129-142
- 後藤はる美「迷信・軽信・篤信 17世紀イングランドにおける魔女と悪魔憑き」『白山史学』査読無 51号 2015 27-56
- 辻本諭「一八世紀イギリスの複合国家体制と軍隊 アイルランドにおける陸軍、とくに兵士のナショナルリティに注目して」『史潮』査読無 2015 77号 4-24
- 辻本諭「18世紀イギリスの陸軍兵士とその家族 定住資格審査記録を手がかりにして」『社会経済史学』査読有 80巻4号 2015、113-134

〔学会発表〕(計10件)

- 近藤和彦「What do we expect from Jacobin historiography?」International Workshop: European Jacobins and Republicanism (国際学会) 招待講演 2019年3月18日
- 勝田俊輔「Comment to Professor Karen O'Brien」ワークショップ Rethinking Enlightenment Cosmopolitanism 2018年6月2日
- 伊東剛史「科学の大衆化が専門分科と専門職業化に及ぼした影響 19世紀のロンドン動物学協会を事例に」日本西洋史学会第68回大会小シンポジウム「近代イギリスにおける科学の制度化と公共圏」2018年5月20日
- 坂下史「農業委員会(Board of Agriculture, 1793-1822)再考 半官半民組織の設立とその含意」日本西洋史学会第68回大会 2018年5月20日
- 近藤和彦「近世ヨーロッパにおける主権と主権国家」立正大学史学会 2017年6月25日 招待講演
- 勝田俊輔「総評 コスモポリタニズムの歴史的文脈」日本18世紀学会第39回全国大会 2017年6月24日
- 近藤和彦「文明を語る歴史学：ランケ以来の近世イメージからの解放」七隈史学会大会公開講演 2016年9月24日 招待講演
- 坂下史「イギリス史研究における18世紀の位置：「長い18世紀」再考」日本18世紀学会第38回大会 2016年6月19日
- 勝田俊輔「趣旨説明」シンポジウム「18世紀ブリテン世界におけるコスモポリタニズム ヒューム、スミス、バークの所論から」2016年12月3日
- 辻本諭「18世紀におけるイギリス陸軍とアイルランド 『3つのネイションからなる軍隊』の成立」歴史学会第39回大会 シンポジウム「軍隊と社会・民衆」 2014年12月7日

〔図書〕(計9件)

- 近藤和彦『近世ヨーロッパ』(山川出版社 2018) 1-92頁
- 勝田俊輔(分担執筆)(Katsumi Fukasawa, Benjamin J. Kaplan, Pierre-Yves Beaurepaire (eds.), *Religious Interactions in Europe and the Mediterranean World: Coexistence and Dialogue from the 12th to the 20th Centuries* (Routledge, 2017), 163-178
- 伊東剛史・後藤はる美(共編著)/那須敬・金澤周作(分担執筆)『痛みと感情のイギリス史』(東京外国語大学出版会 2017) 1-368
- 近藤和彦(共編著)/後藤はる美(分担執筆)『礫岩のようなヨーロッパ』(山川出版社 2016) 1-226
- 金澤周作(共編著)『海のリテラシー 北大西洋海域と「海民」の世界史』(創元社 2016) 1-314
- 近藤和彦(編著)/後藤はる美・勝田俊輔・伊東剛史(分担執筆)『ヨーロッパ史講義』(山川出版社 2015) 1-247
- 金澤周作(分担執筆)(藤原辰史編『現代の起点 第一次世界大戦2 総力戦』岩波書店 2014) 139-159
- 高澤紀恵(分担執筆)歴史学研究会編『史料から考える 世界史20講』岩波書店 2014) 57-65
- 坂下史(分担執筆)(富樫剛編『名誉革命とイギリス文学』(春風社 2014) 17-64

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名：後藤はる美  
ローマ字氏名：Goto Harumi  
所属研究機関名：東洋大学  
部局名：文学部  
職名：准教授  
研究者番号（8桁）：00540379

研究分担者氏名：辻本諭  
ローマ字氏名：Tsujiimoto Satoshi  
所属研究機関名：岐阜大学  
部局名：教育学部  
職名：准教授  
研究者番号（8桁）：50706934

研究分担者氏名：近藤和彦  
ローマ字氏名：Kondo Kazuhiko  
所属研究機関名：立正大学  
部局名：人文科学研究所  
職名：研究員  
研究者番号（8桁）：90011387

研究分担者氏名：坂下史  
ローマ字氏名：Sakashita Chikashi  
所属研究機関名：東京女子大学  
部局名：現代教養学部  
職名：教授  
研究者番号（8桁）：90326132

(2)研究協力者  
研究協力者氏名：  
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。